

## 平成18年産うんしゅうみかん適正生産出荷見通し（案）

## 1 平成18年産うんしゅうみかんの適正生産出荷見通し

|            |      |       |
|------------|------|-------|
| (1) 予想生産量  | 108  | 万トン程度 |
| (2) 適正生産量  | 107  | 万トン   |
| (3) 適正出荷量  | 95   | 万トン   |
| ア 生食用出荷量   | 83.5 | 万トン   |
| イ 加工原料用出荷量 | 11.5 | 万トン   |
| うち果汁用      | 8.5  | 万トン   |
| 缶詰用        | 3    | 万トン   |

## 2 生産出荷量が適正生産量及び適正出荷量となるように調整するために必要な措置

## (1) 生産又は出荷を行う者及びこれらの者の組織する団体の措置

平成18年産うんしゅうみかんについては、需要量は107万トンと見込まれる一方、予想生産量は108万トン程度と見込まれ、当該需要量を若干上回ることが予想される。

このため、本見通しを踏まえ、全国段階、府県段階、産地段階で生産出荷目標を策定し、以下により計画的な生産出荷に取り組む。

## ア 計画的な生産

- (7) 適正な着果量を確保するため、摘果等の作業を推進すること。
- (4) 高品質果実の生産に努めること。
- (ウ) 極早生品種について、需要に見合った生産を推進すること。

## イ 計画的な出荷

- (7) 出荷品質基準の徹底により、高品質果実の出荷に努めること。
- (4) 加工原料用果実について、長期取引契約による安定的な取引に努めること。

## (2) 計画的な生産出荷の実施に資するため、所要の事業を行う。

(参考)

## 平成18年産うんしゅうみかんの予想生産量及び適正生産出荷量

### 1 予想生産量

平成18年産うんしゅうみかんの府県の開花状況報告によれば、

- ・結果樹面積は、前年産よりわずかに減少していると見込まれること、
- ・現時点で開花数がやや少ないことから、着果量は前年産よりやや減少すると見込まれること、
- ・高品質果実生産のため摘果が推進されること、

以上から、平成18年産予想生産量は、108万トン程度と見込まれる。

(参考)「平成18年産うんしゅうみかん生産予想量(開花時点)」(日本園芸農業協同組合連合会調べ)により推定。

「18年産予想生産量の対前年比で、全国で96%と見込まれる。」

| 平成17年産生産量 | 前年対比 | 平成18年産生産予想量 |
|-----------|------|-------------|
| 113万 t    | 96%  | 108万 t      |

### 2 適正生産出荷量

#### (1) 需要量

1人当たり純食料の推計値を基に、需要量を107万トン程度と見込む。

|            |            |        |
|------------|------------|--------|
| ① 1人当たり純食料 | 5.30 kg    |        |
| ② 人口       | 127,741 千人 | 推定人口   |
| ③ 純食料      | 677 千 t    | ①×②    |
| ④ 粗食料      | 903 千 t    | ③÷0.75 |
| ⑤ 国内消費仕向量  | 1,062 千 t  | ④÷0.85 |
| ⑥ 輸出       | 6 千 t      |        |
| ⑦ 消費仕向量    | 1,068 千 t  | ⑤+⑥    |

#### ※ 1人当たり純食料

平成18年の1人当たりの純食料は、近年(平成10～17年すう勢)の1人当たりの果実の純食料の実績(推計)を基に5.30kgと見込む。

#### (2) 適正生産量

(1)の需要量から適正生産量を107万トンと見込む。

#### (3) 適正出荷量

近年の用途別出荷量比率等を基に以下のとおり見込む。

|            |         |
|------------|---------|
| 適正出荷量      | 95 万 t  |
| 生食用出荷量     | 83.5万 t |
| 加工原料用出荷量   | 11.5万 t |
| うち 果汁用     | 8.5万 t  |
| 缶詰用        | 3 万 t   |
| 自家消費・腐敗減耗量 | 12 万 t  |
| 合計(適正生産量)  | 107 万 t |